

お子さんのB型肝炎母子感染予防について（日本小児科学会の考え方）

B型肝炎の予防接種を実施するに当たって、特に医学的に問題のない元気なお子さんで、医師が接種可能と判断したら、出生後できるだけ早く（12時間以内）にB型肝炎ワクチンとHBグロブリン（B型肝炎に対する抗体をたくさん含んだグロブリン）を接種します。出生後12時間を過ぎても接種は可能ですが、その場合でも生後5日以内の接種が勧められています。時間的に余裕のある出産前に以下をよくお読みください。また、**B型肝炎ワクチンは生後1ヵ月、6ヵ月にも接種しますので、忘れずに受診してください。**

【接種対象】

妊娠中の検査により、あなたはB型肝炎ウイルスを持っているという結果になりました。妊娠中や出産時に母親の血液がお子さんにふれることによってウイルスが感染することがあります。特に乳児期にお子さんがB型肝炎ウイルスに感染すると高率にキャリア化（B型肝炎ウイルスを常に体の中に持った状態）し、将来の慢性肝炎、肝硬変、肝がんのリスクとなるため、ワクチンとHBグロブリンで予防することが重要です。また各国の予防接種ガイドラインにおいても新生児、乳幼児、小児の方に幅広く接種が推奨されています。

【ワクチンの特徴と効果】

遺伝子組換え技術を応用して製造されたB型肝炎ワクチンで、広く国内でも使われています。母子感染予防に用いられた場合のキャリア化予防率は高く、あらかじめB型肝炎ワクチンを接種して免疫が獲得されていると、肝炎のキャリア化が防御されると報告されています。

【ワクチンの副反応】

主な副反応としては、発熱、発疹、倦怠感及び注射部位の疼痛、発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）等があります。また、きわめてまれな頻度ではありますが、強いアレルギー症状（ショック、アナフィラキシー様症状）などを起こしたという報告があります。

もし接種後に心配な症状がみられた場合は、接種を受けた医師あるいはかかりつけの小児科医に相談してください。

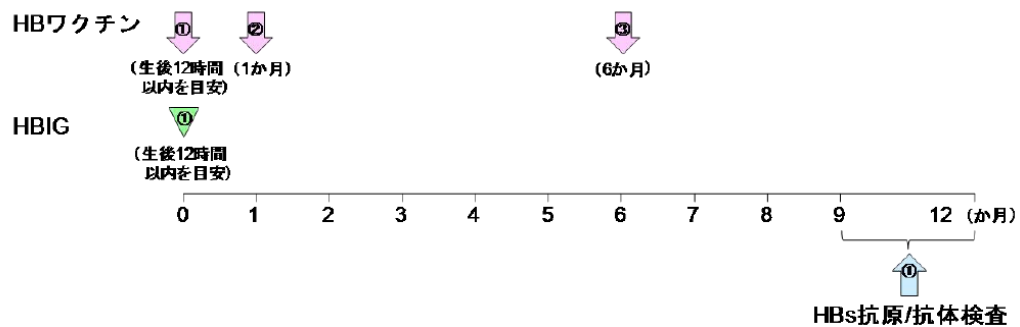
なお、入院が必要な程度の疾病や障害などが生じた場合については、「医薬品副作用被害救済制度」の対象になる場合があります。詳しくは、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構にご相談ください。

（参考：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

電話：0120-149-931（フリーダイヤル） ホームページ：<http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai/help.html>）

【接種のスケジュール】

まず生まれてすぐに、お子さんにHBグロブリンの投与とワクチン接種を行います。**B型肝炎ワクチンは出生直後、生後1ヵ月、6ヵ月の3回必ず接種してください。ワクチン接種を行う産科や小児科の医師にわかるように、接種記録を母子手帳に記載することが推奨されています。**



（このスケジュールは標準的なB型肝炎の予防方法です。実際にはお子さんの状況に応じて、HBグロブリンやワクチンの追加が必要な場合もあります。この場合は医師の指示に従ってください。）

【接種が不適当な方（予防接種を受けることが適当でないお子さん）】

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を受けてはいけません。

1. 明らかな発熱を呈している方。（37.5℃を超える方）
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
3. B型肝炎ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方。
4. 上記にあげる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方。

【予防接種を受ける前に、医師とよく相談する必要があるお子さん】

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気にかかっている方
- ・予防接種を受けたときに、2日以内に発熱のみられた方及び発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた方
- ・今までにけいれんを起こしたことがある方
- ・過去に本人や近親者で、検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある方
- ・薬の投与又は食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことのある方
- ・そのほか、医師、保健師の指導を受けている方

【他のワクチンとの接種間隔】

B型肝炎ワクチンの2回目以降の接種時の注意として、生ワクチンの接種を受けた方は、通常27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた方は、通常6日以上間隔を置いてB型肝炎ワクチンを接種してください。

【接種を受けるときの注意】

1. からだの具合の悪いときは接種を受けないでください。
2. 接種を受ける前に、必ずお子さんの体温を計りましょう。

【接種後の注意】

1. B型肝炎ワクチン接種後30分間は、様子を観察し、医療スタッフとすぐに連絡をとれるようにしてください。
2. 接種当日の沐浴は差し支えありません。ただし注射したところをこすらないでください。
3. 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
4. 接種後は健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療をうけてください。